

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of melanoma metastases in the brain	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ19-6	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I ）	
	Pubmed ID	8914207	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Semin Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	12	
	号	6	
	ページ	429-35	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1996 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Ewend MG	Johns Hopkins 大学
その他著者 1		Carey LA	同上
その他著者 2		Brem H	同上
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	悪性黒色腫の脳転移例に対する治療法をレビューする。
	データソース	記載なし
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	手術療法：出血や浮腫によりヘルニアを生じている症例では第一選択となる（特に、後頭蓋窩）。単発例で生命の危機を及ぼす病変でなければ手術が良い。予後良好例は単発例、頭蓋外の病変が制御できている、初診から 5 年以上たっているなど。平均生存期間は 5・15 か月。手術による生命予後の改善は示されていないが、全身状態 (QOL) の改善は期待できる。 放射線療法：遡及的研究において、照射と手術＋照射を比較し、照射例では脳内転移巣による死亡が 24%であったのに対し、非照射群では 85%であった。脳内再発は、照射群で 37%、非照射群で 69%であった。全症例に行うべきとは言えないものの、姑息的治療として有用。 定位照射：7 か月での局所制御率は 97%。一つの報告で、平均生存期間は 9.4 か月、脳転移が直接の死因となったのは 31%であった。 化学療法：DTIC、BCNU、CDDP などが試みられ、反応は 46%に見られるが、脳内転移に対する効果は低い。平均生存期間は 4.3 か月。
	結論	手術は単発例などで適応となる。定位照射は局所制御率が高い。通常の外部照射は一部の症例で有用であるが、手術や定位照射と組み合わせて用いられる。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	放射線療法の意義を、切除後の再増大の抑制と他部位の転移巣の抑制と位置付けているが、症状緩和としての姑息的治療の位置づけがなされていない。やや手術に偏った記載が気になる。厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されておりそれに準ずるものと評価した。 レベル I